矢崎総業「再生可能エネルギーの積極活用」

エネルギーのベストミックスで地球環境に貢献

他社に先駆けて地球環境に配慮した製品の開発・供給に取り組んできたのが矢崎総業だ。太陽熱や木質バイオマスなどの再生可能エネルギーをフル活用する給湯器や冷暖房システムは、エネルギーのベストミックス実現の側面からも注目される。

矢崎総業は1941年の創業以来、地球環境に対する志を掲げていたという。

高度成長期の72年に、「環境産業をめざす矢崎」、そして73年には、「もうこれ以上環境を壊すことなく、次の時代のために、よりよい環境を創造しよう。人間と地球、その命と心を守り抜くために」というメッセージを社内に発信し、74年には、世界で初めて太陽熱を利用した冷暖房システムの運転に成功した。その後、一般家庭用太陽熱温水器を世に出したのである。

地球環境とエネルギーの将来をいち早く見据えた同社の先進性には驚かされる。

さらに、間伐材や端材などを固形燃料化した木質ペレットにも着目した。

「木質ペレットの利用は、森林保全、ひいては大気中のCO_2削減につながります」と、環境システム事業部の清水一雄・事業部長は言う。

世界で初めて木質ペレットを熱源とするエコで高効率な冷暖房システム「木質ペレット焚バイオアロエース」が2008年に商品化されているが、10年には木質ペレットを利用した農業用ハウス温風機を発売、さらに業務用および家庭用給湯器などの関連商品も開発中だ。

清水事業部長は「まずは、10年程度で償却できる価格設定を目指しています」と明かす。

矢崎総業
環境システム事業部事業部長
清水一雄・執行役員

ランニングコストとCO_2排出量を削減

矢崎総業が伝統的に強みを有する太陽熱利用の分野でも新たな活用策を提案している。

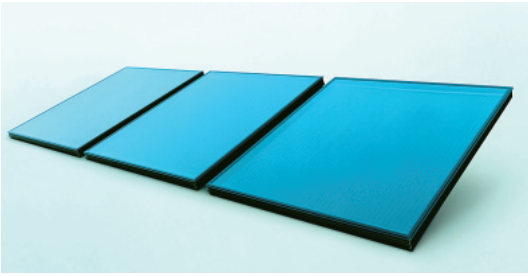
たとえば、ガス給湯器と太陽熱パネルを組み合わせた給湯システム「エコソーラー」も開発。クリーンな太陽エネルギーを使えば、ランニングコストとともに、CO_2排出量も削減できるメリットがある。

また、ヒートポンプで水を熱して給湯する「エコキュート」と、太陽熱パネルを融合したシステム「エコキュート・ソーラーヒート」にも注目したい。空気の熱と太陽熱の両方を活用できるため、より効率よく運転できる。

このように、太陽熱とガス、太陽熱と電気を組み合わせるエネルギーのベストミックスの発想を具現化できるのが、矢崎総業の強みだ。

エネルギー・ベストミックスの考え方は、新たな環境対策の切り札と目される、スマートグリッド構想でも注目されている。

矢崎総業が創業以来培ってきた高い環境技術が、その一翼を担うと期待できそうだ。


ガス給湯器や「エコキュート」と組み合わせ、エネルギーのベストミックスを実現する太陽熱パネル

木質ペレット製造・供給のモデル事業を行う高知県梼原町の「矢崎の森」では社員もボランティアで森づくりに参加

シリーズ
環境/CSR

問い合わせ先
矢崎総業株式会社
〒108-8333　東京都港区三田1-4-28　三田国際ビル17F
http://www.yazaki-group.com/